



## 高校野球のマナーとルールを学ぼう (第 67 回)



一般財団法人兵庫県高等学校野球連盟

グラウンドでの試合を振り返り、高校野球の大切なマナーとルールを学びましょう。  
あなたの「なぜ? どうして?」にわかりやすくお答えします。

### マナー・ルール合同編

### ビデオ判定と審判員の裁定



2016年5月11日の阪神VS巨人戦で、初めてコリジョン(衝突)プレイによるビデオ判定が行われ、判定が覆りました(アウトがセーフに覆った)。日本プロ野球でのビデオ判定は、2010年にホームランに限定して適用、更には、2014年には外野のフェンス際の打球、2016年より本塁でのクロスプレイにも拡大して適用されました。

一方、アマチュア野球ではビデオ判定は導入されていませんが、今回は審判員の裁定の意味と審判員の掟について紹介したいと思います。

#### 《審判員の裁定》【野球規則 8-02 抜粋】

(a) 打球がフェアかファウルか、投球がストライクかボールか、あるいはランナーがアウトかセーフかという裁定に限らず、**審判員の判断に基づく裁定は最終のものであるからプレーヤー、監督、コーチまたは控えのプレーヤーがその裁定に対して異議を唱えることは許されない。**

「原注」ボール、ストライクの判定について異議を唱えるためにプレーヤーが守備位置または塁を離れたり、監督またはコーチがベンチまたはコーチボックスを離れることは許されない。もし、宣告に異議を唱えるために本塁に向かってスタートすれば、警告が発せられる。警告にもかかわらず本塁に近づけば、試合から除かれる。

(b) 審判員の裁定が規則の適用を誤って下された疑いがあるときには、監督だけがその裁定を規則に基づく正しい裁定に訂正するように要請することができる。しかし監督はこのような裁定を下した審判員に対してだけアピールする(規則適用の訂正の申し出る)ことが許される。

(筆者注) 高校野球では、高校野球特別規則の 28 により、「審判員に対して規則上の疑義を申し出る場合は、主将、伝令または当該選手に限る。」と定められていることに留意しなければなりません。

審判員に対し、規則の適用を誤って下れた疑いがあるときだけ、正しい裁定に訂正するよう要請することが認められています。一方、審判員に対する一般指示として、野球規則には以下のとおり記載があります。

「審判員にとって最も大切な掟は、“**あらゆるプレイについて最もよい位置をとれ**”ということである。たとえ判定が完璧であっても、審判員の位置が、そのプレイをはっきりと明確に見ることができる地点でなかったとプレーヤーが感じたときは、しばしば、その判定に異議を唱えるものである」(抜粋。太字箇所は編者が加筆)

選手、指導者に制限がある中で、最終の判断の権限を持つ審判員は、「掟」という強い言葉の意味を十分理解し、「正しい判定」「明快なジャッジ」「正しいルールの適用」に努め、研鑽を怠ってはならないと思います。

